

自立支援協議会について

共通の目的に向け、情報を共有して、具体的に協働する
地域の関係者によるネットワーク&プロセス

◆「共通の目的」

- ・「障害のある人が普通に暮らせる地域づくり」 全員が大きな共通認識を常にもちながら参加する。

◆「情報の共有」

- ・ 地域の実態や課題等の情報を集約し全員が共有する。原点は個別の支援会議。

◆「具体的に協働する」

- ・ 参加者が抱える実際のケースや地域の課題を持ち寄り（個別の支援会議が重要）、制度や誰かのせいにするのではなく、全員が自らの課題として受け止め、ともに解決しよう、自分のところでは何ができるか、一歩でも前進しようというスタンスで協働していく。お客さんや評論家は不要。

◆「地域の関係者によるネットワーク」

- ・ 利用者が抱える様々なニーズに対応していくためには、保健、医療、福祉、教育、就労等の多分野・多職種による多様な支援を一体的かつ継続的に用意することが必要。
- ・ 一事業所だけで用意できる支援には限界がある。そのことに気づけば、自ずと顔が見えるネットワークの必要性がわかるはず。
- ・ 官と民が協働するシステムの構築。

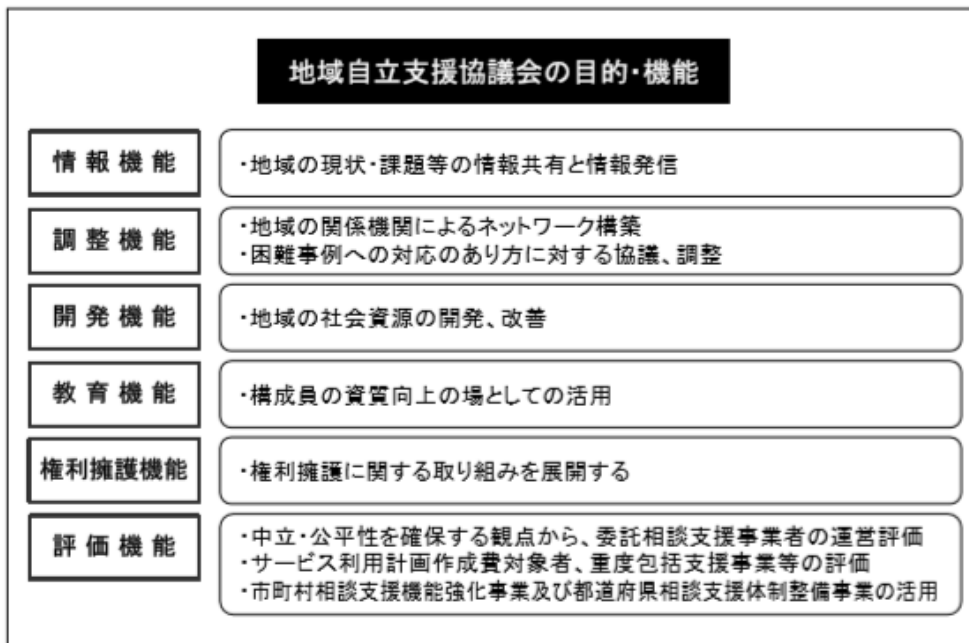


図 13 地域自立支援協議会の目的・機能（厚生労働省）